

(様式第4号)

上田市公立大学法人評価委員会 会議概要

1 審議会名	上田市公立大学法人評価委員会 (第4回)
2 日時	令和4年9月29日 午前9時30分から午前12時00分まで
3 会場	上田市役所本庁舎4階 庁議室
4 出席者	田村秀委員長、鳥居希委員長職務代理者、佐藤明生委員、城下徹委員、西牧敦子委員
5 市側出席者	堀内大学改革担当参事、北沢学園都市推進室長、中山大学改革担当政策幹、堀内学園都市推進担当係長、倉澤主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開 理由:
7 傍聴者	0人 記者 1人
8 会議概要作成年月日	令和4年 10月11日

協議事項等

1 開会
2 議事
(1) 第2期中期目標案の策定について (資料1～5)
○資料に基づき、事務局が説明
(委員) 昨年、次の中期目標、中期計画の策定や期中における業務の統廃合に向けて、見込評価を行った。6年間分の4年間の評価実績をもとに見込んで評価した。それが基礎にあったうえで、直近の評価がそのズレを補正するのが、基本構造かなと思っている。資料だと、見込評価が忘れられているように見えるが、内容を確認したい。
(事務局) 見込評価でご指摘いただいている部分について、見込評価の中の業務運営等に対する意見として、7点ほど指摘を頂いている。大学院開設及び学部学科再編、教員評価制度、淡水生物学研究所、競争的外部資金、地域づくり総合センター、国際交流との連携、財政シミュレーションの7点ほど、指摘頂いている。令和3年度と記載してあるが、ベースには見込評価があり、それを反映するかたちとして考えている。
(委員) 淡水生物学研究所の記述で、見込評価では、理工系学部再編のところで重要と書いてあったが、今回の市の考え方というのは、「学部とは別に」と記載されている。 その判断自体は、行政判断としてあり得ると思う。資料を読み上げるだけではなくて、そういった点について、市の考え方を説明いただきたい。
(事務局) 淡水生物学研究所について、見込評価では、委員の御指摘のとおり、「理工系学部構想においても重要な役割を担うことが期待される。将来を睨み、戦略的な取組が求められ、その実行のための体制整備が重要となる。」と指摘を頂いている。 その後、今年に入って、大学で、学部学科再編の検討を進める中、今申し上げたとおり、学部学科とは切り分けた大学の附置施設と位置づけで現在は進めていきたいと考えている。 市としても、その方向でよろしいのではないかと考えている。今回、お示しした、上田市の考え方としては、資料のとおりです。
(委員) その資料は、前回の評価委員会に配られたのか。今、聞いた大学の方針は、新学部設置なり、淡水生物学研究所については、エビデンス資料にあるのか。

(事務局) 令和3年度のエビデンス資料に委員ご指摘の資料はない。令和4年度のことで資料はない。

(委員) 私としては、初めて聞いた話なので、大学がこう決めているから、市の考え方がこうなっていると説明したのであれば、言ってくれないとわからない。

どこまでが市の考え方で、どこまでが大学の考え方で、それを受けて、市が大学の考え方を引用しているのか、それとも市としての考え方を定めてやっているのか。できれば資料の文字を読み上げるのではなくて、そういったことも意識しながら、委員としてわからないことについて、説明して頂きたい。

○資料に基づき、事務局が説明

(委員長) 一括して、説明内容について、各委員の皆さんからお伺いしたい。

(委員) 資料3のところの中期目標に、学部のところには水産学部が入っていないのは、なぜか。

(委員長) 理工系学部ではなくて。

(委員) 理工系学部の水産学部ですかね。目標に入っていない。先ほどの話を聞くと、淡水生物学研究所は、学部とは関係なく切り離してと説明がありましたが、全然話が変わってくると思います。この表に入っていないのは、結局、理工系学部は設置しないということなのか。

(委員長) 理工系学部は設置するけれども、水産は研究所としての存続であって、学部ではないという整理になります。

(委員) そうすると、理工系学部として、何の学部ができるのか。

(事務局) 現在、長野大学また上田市で検討している内容としては、情報系を核とした学部を考えています。以前は、学部の中に、研究所を位置付けて、水産的なものも学部の一部として、活用していくということも検討に上がっていました。

核となる先生との打ち合わせ等をしていくうえで、それが難しいとのことで、淡水生物学研究所としては、先ほども申し上げたとおり、地域のための研究をするための研究所という位置づけで捉えていきたい。

(委員) この間、水産学部の割り振りで、新しい建物を建てるときに、これだけのものという話があって、なんでこんなに多いのですかという話をしたときに、まだ色々なものを持ち込まないといけないし、先生の希望があって、最終ではないという話で終わっていた。

(事務局) 現在、検討中でありまして、今の段階で確定的なことは申し上げられない。最終的には、市議会に諮るなかで、大学の方向性、公立大学法人としての方向性というのは、そういったところもかけて進めていきたい。

(委員) 令和7年度から理工系学部という話になっていて、まだ決まらないということはおかしい。令和7年から始めることができないから書けないということでしょうか。

資料4の3ページ目の上のところに理工系学部さえも書いていない。これは令和5年から令和11年のものなので、例えば、学部のところには、理工系学部未定、検討中という形で書いておけば、そうなのかと思いますが、何も書いていないということは、11年までには理工系学部を入れないということですか。

(委員長) そういうことではないです。だいたい1~2年かけて、大学設置審査にかけることになる。厳しい部分はないけれども、2年弱あれば、やっていくことは不可能ではない。実際、2025年度に学部をつくることで、これまでも議論してきた訳ですよ。それに向けてやる。中身については、水産系の学部としては置かないと、いま議論している。新しい大学をつくるのではなく、大学の中に学部をつくるわけで、既存学部の先生もいるわけです。

(委員) もし可能として、ただこの中期目標があくまでも11年までのものが入っているのだから、ここには何かしらの記載があつて然るべきと思いますが、如何でしょうか。

(委員長) 令和5年(2023年)の時点では、このままになっている。中身がまだ決まっていなくて、既存のものになっている。

(委員) 予定としてあるのだから、ここに書くべきではないでしょうか。

(事務局) 資料4の3ページの上のところの中期目標の教育研究上の基本組織のお話しということでよろしいでしょうか。こちらにつきましては、先ほどありました通り、理工系学部のどのような学部学科を置かかというところが現在の段階では決まっていないという状況です。それを反映して、資料4の1ページの一番下の表のところに「また、この期間内に、新たな教育研究組織の設置も含めた大学組織の再編を行う。」というところでカバーしたいと考えている。

こちらに書くには、先ほども申し上げたとおり、設置、どのような学部にするのか、どのような学科を設置しているのか、といったことについては、ここだけで出す話でもなく、市議会を通して、広く合意をとるなど、そういう経過も今後必要となる。来年度から始まるものをつくるにあたり、こういった表現で提示させていただければと思います。

(委員長) ですから、令和11年3月31日まで、この組織だという訳ではなくて、これを再編する作業を現在進行形でやっている。

(事務局) こちらに理工系のものを加える際には、中期目標の関係については議会に諮る必要がありますので、改めて作り直す作業をさせていただきます。その際に、また皆様のところにはその案件について、説明をさせていただきます。

(委員) それはいつになりますか。いつ議会に上げるのですか。

(事務局) こちらの第2期中期目標については、12月議会に提示する予定です。

(委員) わかりました。

(委員長) 理工系が固まれば、これを改正するということですか。

(事務局) そうです。その時期にまた行わせていただきます。

(委員) 大きく2点あります。先ほどの委員のお話しされたことと関連するのですが、今の中期目標(案)だと、別に理工系を作らなくても良い書き方になっている。理系というニュアンスを明記しないのかが、ひとつ。

それと淡水生物学研究所についても同じく、どうするのか、大学にお任せになっている。市としての方針をなぜ明記しないのか。それが疑問点の一点目。

二点目は、そもそも中期目標と中期計画があつて、この委員会の役割と責任を教えてもらいたい。中期目標に対しては、どういう関与、中期計画に対しては、どういう関与なのか。法令的なものも含めて説明をお願いします。どういう責任があるのか、これが2番目です。

(委員長) ありがとうございます。言われてみると、仰る通りで、新たな教育研究組織と書いているだけで、なぜ理工系とは出さないのか。市も理工系と言っているわけですから、なぜか。

例えば、資料4の3ページに「新たな教育研究組織」を理工系学部の設置とか。市議会に対しては、ずっとこう言ってきたのか。可能な限り、明確にした方が良くはないか。

(事務局) 中期目標と中期計画の位置づけのなかで、中期目標で定めたものより、具体的に大学が示すものが中期計画になる。理系のところの表現をここに載せるかどうかについては、今すぐお答えができないと思っております。方向性が定まったところで、学部学科名も含めたお話しをしていきたい。

(委員) 学科名は、大学に任せれば良いと思うし、或いは、今日、市が説明した既存学部と独立してなどの話は、市が関与する必要はなくて、大学に任せるという話。独立行政法人というのは、法人に委ねるとのことなので、そういった細かいところは書かないのが良いと思う。

ただし、目標として、文系大学を理系に乗り出して、しっかりとやってくれというか、今だったら、法律上の行為の中期目標では、少なくとも言うてはいない。

例えば、文系だけで改組しても、中期目標を守ったことになる。

公立大学設置の頃から宿題として、ずっとやってくるのに、少なくともそういった記載をする理由が理解できない。細かい話は、大学に委ねるべきで、市の説明のなかで、新しい理工系学部と淡水生物学研究所を独立させるという細かい話を中期目標に書くのは、おかしいと思います。少なくとも、書いていない点については、法人に委ねるとのことですね。

(事務局) そのように考えております。

(委員) そうすると、今の中期目標は、理系をつくらなくても良いという案になっているということですね。言葉だけで見れば。そうする必要があるのかという話だと思うんですよ。ストレートに書いたって良いのではないか。

(委員長) 市の意思を示さないと、委員の指摘のとおり、極論ですが文学部ができてそれでも良い話になってしまう。公立大学だから、市としての政策にマッチしていることが最低限必要。今の新たな教育研究組織だったら、極論を言えば、学部かどうかもわからない。新たな教育研究組織とは何か。全然違うことかもしれない。そこは、確認させてください。

(事務局) 市としても、ご意見いただいたところを検討させていただきながら、考えていきたいと思えます。

(委員長) 理工系学部と思ったら、違うものが出来ちゃうかもしれない。考え方を示してもらえればと思います。あと、我々のミッションについて、答えられますか。この委員会がどこまで、中期目標、中期計画にコミットするのか。

(事務局) 地方独立行政法人法のなかで決まっている委員会となります。市で策定する中期目標については、皆様から御意見をいただく形となります。中期計画につきましては、法人が作成した中期計画を市長が認可する際に意見をお聞きすることになります。それに基づきまして、中期目標について、御意見をいただく機会を設けさせていただいたあと、議会に上程して、それが可決された後で、それに基づき、大学が作る中期計画につきましても、市長が認可する際の意見

を求める機会を設けさせていただきます。

(委員長) 評価委員には決定権はないわけですね。意見を出したが、専門家の意見は聞きましたとなるかもしれない。ある程度反映はしていただきたいとは思いますが、反映できないところもあるということで良いですね。

(委員) 理工系の文言を入れるとか、そういったことと同じですが、市の考え方ということで、今回の第2期中期目標をつくるにあたって、市の考え方を提示いただいたのですが、ここで7つまとめさせていただいていますし、その7つまとめていただいたのは、評価委員の意見がだいぶ入っていると思っている。

そこで、資料1の3(1)から(8)までの項目で、特に感じたのは、例えば、地域づくり総合センターや、淡水生物学研究所、ジェンダーバランスのことについて、そういう文言が中期目標の中に入っていない。非常に逃げられるような目標の作り方になっている。

例えば、ジェンダーバランスをこういう風なジェンダーバランスに考えていくべきだと書かれていなくて、先ほど、話がありましたが、ジェンダーバランスをそういう言葉に直してありますと説明がありましたが、なぜストレートに書かないのか。

それは理工系学部非常に直接的に影響しているところではないのか。同じような考え方で、行政的な感覚なのかもしれないが、民間から見ると、やりたい方向が明確に出ていることについては、文言として明確に出さないと幾らでも逃げていける。かつ、評価委員として見ると、目標なり、計画に対して、出来ていますか。という評価をする形になってしまうので、結果的には出来ているとなり、a評価ですと言わざるを得なくなってしまう。

そこで意見は言えるけれども、評価基準としてはOKですね。となってしまう。というのは、良くないのではないか。だから、目標としては、入れる入れないは問題があるだろうと思うけれども、入れるところまでは、しっかりと、少なくとも、こうしたいという(1)～(8)の市の意思が出ているのであれば、その文言は少なからず入れてもらいたいし、入れられれば良いと思う。それで、評価委員として、それについて、評価していくかという形を取っていれば、もっと明確にやっていけるのではないかと思います。

(委員長) ありがとうございます。その通りだと思います。あまりにも抽象的過ぎて、どっちにも読めるような役所めかもしれない。やはり目標というのは市が何をやりたいのか、しっかりと市民に示すべきものですし、委員が仰ったように評価するときの目標がどちらでもとれるようなものだと、評価もやりにくいし、結果的に評価OKになるかもしれないが、それは、目標を立てる意義すら問われることになる。可能な限り、具体的な所は柱とか旗はちゃんと何色か、示さないとわからないわけです。今はすごくグレーで、玉虫色な感じがしている。

例えば、淡水生物学研究所のことが書ける、書けないとあるかもしれませんが、何か理工系学部も含めて、ジェンダーバランスの言葉が無いとか、そういうところは、入れてはいけない理由はないと思いますが、今の段階で何かありますか。

(事務局) 御意見としていただきます。ただ、事務局としましては、ジェンダーバランスはもちろん大事な視点だと思っておりますが、ジェンダーバランスを書くことで、他にも書かなければならない項目というものが、中期目標のところ、出てくる可能性があり、そういったことも考慮させていただければと思います。

繰り返しになりますが、ジェンダーバランスの視点は重要と考えていますので、多様性というところのなかで、ジェンダーバランス以外のところにつきましても、大学の方で提示してくる中期計画のところ、落とし込んでいきたいと思っております。

重点項目として、見ていく項目として、市としては、ここについては、大学とも連携してやっていく。

例えば、ジェンダー以外の問題と言いますか、こうしたほうが良いというものがあると思う

ので、ひとつで、なぜこれは出ていないなら、それではこれもとなる形が良いのか、結局そうすることで、今年度の年度計画が130項目以上ありましたが、そういった年度計画の項目数が、他大学に比べるとやはり多いという状況もありまして、皆様の評価のところでも、御負担をかけている部分があるのかなと事務局として危惧している。

そういった項目数も少なく、皆様のお時間をとらないような形で、最終的な上がりかどのようになったら落ち着くのか、という点も考えていきたい。そこも含めて、検討させていただければと思いますので、よろしくお願いします。

(委員長) ありがとうございます。続いて、意見ををお願いします。

(委員) 先ほど、お話しに関しては、ジェンダー以外の年代ですとか、色々あると思いますけれど、別項目を立てる必要はなくて、例えば、括弧書きでも良いですけれども、具体的にどういうポイントを注視して、構成員を決めないといけないかということ具体的に考えて決めるプロセス自体が重要と考えます。

それをきちんと文章に落として、ひとつの項目にまとめることはできると思いますので、参考までにお話しします。他のところでもたくさんあります。

それともう一つ、恐らく、今、答えはないと思うので、意見となりますが、淡水生物学研究所に関して、イメージがあまり、他の大学のこと知らないためにできていないだけだと思いますが、淡水生物学研究所を理工系学部とは、別にして、附置施設としてやるということですが、今頂いている資料1ですと、学生の教育機関としての機能を発揮させると書いてあります。

学部がない研究所で誰が勉強するのかという点と、そもそもこの研究所の受益者、この研究所の恩恵を受けるのは誰なのかがよくわからない。

先ほど出ましたミッションのところ、この評価委員のミッションのことで、意見が通らないことについては別に良いと思います。どちらかという、私が気になっているのは、第1期のときの中期目標に基づいて、中期計画を評価したときのプロセスを通じて感じたことは、これは最初だったということもあり、多少そうせざるを得なかった部分もあるのかなと思います。目標とか計画の内容とかの作り方自体、土台はあったけれども、評価委員が作る所かなり踏み込まざるを得なかった。

それを基に、どうやって評価していくか、というところから考えたときに、それでもややこしい形になってしまったかもしれないですけれども、評価委員が作る所かなり時間を使いました。

それだと、本来の形ではないと思っていて、意見を言うのと、作るのは別だと思うので、市と大学、大学には意図があって、市にも意図があるべきだと思います。

それが引っ張り合う体制になっているのか、そういった話し合いが行われたものに対して、評価委員が意見を言っているのか、ということがちょっと心配というか、実際、評価委員の意見を市に聞いていただいただけで、聞かれない部分も含めて、それを受けただけで判断されているのだとすると、市の意図はどこで主張されるのかが不明瞭なプロセスと思いました。

(事務局) 公立大学法人を市が設立して、運営については、公立大学法人が主体となって動いていくという公立大学の仕組みによるところが大きいと思う。評価委員の皆様から頂いたご意見を大学にも伝えていきますし、この中期目標、中期計画を作る所でも、連絡を密にしながら、進めています。

市の意思がどこまで入っているのか、というところは、打ち合わせで協議していくなかで、反映していく形で行わせていただいているつもりです。

次回、より精度の高いものを作りますので、そこでも御意見を頂ければと思っています。当然、市としましても、長野大学に出向しております市職員も大学で関わらせてもらっています。

評価委員の皆様のご意見は大変重要とこちらも考えております。私達の考えていなかったよ

うなところも御指摘いただいて、それも参考にさせていただきながら、市としてどうしていきたいということを考えております。

それに基づいて、中期目標を策定させていただいているところですが、中期目標に入れ込めるところは入れ込んでいきたいと思っております。

参考にお示しさせていただいております他大学の中期目標も参考にさせていただいております。玉虫色とのお話もありますけれども、目標というのは、大きな部分で考えて、作成しているところです。

大きなところから、より具体的な計画という形で、大学に計画を策定するように指示しておりますので、当然、ジェンダーの関係、括弧書きでというお話もありますので、検討させていただきたいと思っております。

(事務局) 委員から大学の淡水生物学研究所の受益者が誰かとの御質問を頂いております。学部学科からは切り離して、一般教養ですとか、大学全体の学生の学びの場、環境等の学びを受け入れる施設という形での活用を現在、検討中しているところです。生物学の講座について、大学のカリキュラムの方でも生まれ、始めていまして、運用も始まりつつあるという状況と聞いております。今の段階で、こちらの方でお答えできるのはそれ位になります。

(委員) 最初に説明のあった市の考え方の中に、この6年やってみてどう思っているのかが欠けているのではないかと。順調にしているのか、そうではなくテコ入れするのかがなく、第2期の各論になっているところが、残念に思っている。その点が、他の委員の感想と同じかもしれない。

2番目に、市の資料1の淡水研の中で、鮎の研究の話も出ているが、それが大事であるという話をいつていただくのは構わないが、他方、現状の人員体制も出ている中で、国からの外部資金を取って雇用も生み出し、国策に沿った先端研究を行っている。鮎のような研究を行うのであれば、研究は人あってこそで、体制整備もセットで考えていかなければいけない。

市議会への説明があったとのことだが、当然、それなりの体制整備が前提で説明されたと思う。実質できない体制に、高い目標を求めても、実現可能性を見究めたうえで言うことも必要ではないかと思う。

3番目は中期計画についての、今回は中期目標の検討ための参考資料だと思うが、多分、資金の問題で、資金の総額の中で法人がこんなことを6年間でやりますと約束するのが中期目標、中期計画の関係であると思うので、前々回からずっと言っているとおり、金のそういったことを考えた上でやっていかなければいけないのではないかと。

あとは、市の考え方をもう少し中期目標に入れていくというのは、そういった方向性で良いと思う他方、大学が決めなければいけないことと、中期目標として行政機関が決めなければいけないこと、法人に求めること、仕分けを良く考えてやる必要があるのではないかと。

冒頭にあったように、例えば淡水研は附置施設として、学部学科に含めないという内容を中期目標に書くことが適当なのかどうか。

(事務局) 鮎の話につきましては、施設を取得するにあたり、長野大学が取得する際、こういった研究をするので取得して欲しいという約束事の1つであると認識している。

市としては、その約束事を守っていただきたいとの思いから、4ページに掲載している。

また、第2期の予算については、理工系を設置した後に増えるであろう、運営費交付金については増額した分で運営を支援しますし、施設整備にかかる経費についても市からの支出は避けられないと考えている。いくらかという話が出てくると思うが、設計が終了していない現段階では明確にお答えできない。市の姿勢を示す総合計画に、長野大学に支援をしていくという方向を示していますし、総合計画に基づき計上する実施計画に長野大学の整備については項目計上として載せている。金額につきましては、予算を伴うものは議会にかけて議決を戴く必要があるため、現段階での金額の明示は難しい状況です。

(委員) 6年前に第1期の時に議論した時には、一応上田市の資金見積りを出していました。市が懇談会資料として出していたもので、各年の資金見積りが示されていた。

(事務局) 大学を取得する際、市に負担をかけないという前提を説明する試算になっている。

(委員) そうした試算を第2期策定にあたっては行わないのか。

(事務局) 第2期中期計画の際に、6年間でかかる予算の総額は大学で作りますし、そのベースとなるのは財政シミュレーションになる。総額については現在大学で作成中。今年度のどこかで、中期計画では必ず出てきますが、すぐに出せる状況にはない。

(委員) 中期計画の内容と、ひいては中期目標に繋がるのかもしれないが、資金規模は連動する話ということをお願いしたい。今の話、中期計画の審議の際には併せて説明いただけるとの話でしたので、理解いたします。

(委員) 私は企業の会計を見せていただいている、不採算部門を評価しています。売り上げがあつて経費がある。それを全体で見ると、個別に見ると仕事をしています。

その立場から言わせていただくと、淡水生物学研究所が学部として成立しないのであれば、そこに係る費用、市が出すもの、長野大学として、理工系学部としてそこに流れていくのはおかしいのではないかと。不採算部門を長野大学に押し付ける形にならないかと。

他学部があつて、そこで採算を取る、足りない分は補助金を出す、それは市としてはしかたがないと思いますが、淡水生物学研究所が長野大学の学生に学部として成立していないにも関わらず、不足分を出させるのは、大学のためになるのか。

最初、水産学部と聞いていたので、最初の会議の際に、「全国的にも珍しい学部ですね、就職先をどう確保するのか。」と発言した。当然、学部としてマイナスになった分は、現在赤字でも、将来黒字になれば良いと思っていた。

そうではなく、まるっきり外部となれば、大学から切り離した方が良く無いでしょうか。

長野大学の理工学部を設置したところから利益が生じるその金額を淡水生物学研究所にあてるのはおかしくないかと。

(委員) 長野大学のことを考えなければいけないので、赤字の垂れ流しみたいなことはやるべきではない。もし、続けるようであれば、委員が仰ったようにちゃんと収支を出す。どの位の赤字になるのか、もし黒字であればこんな議論はいらない。どれだけ赤字になるのか、どれだけ流れているのかを最初にやるべきであり、会社の経営では成り立たない。

(委員) 資料1の5ページにもあるとおり、外部からの研究資金を取得しており、長野大学の中では突出している。民間企業とは違う性質のものであることへの理解も必要ではないかと。

基本的に、淡水研の位置づけについては、大学が判断されているということが書かれている。大学から理工系学部の考えをきちんと委員会で伺わないと、コメントしづらいのではないかと。

(委員) 補助金は多額だが、ただ、今後の見込みもないのでは、話は進められない。採算性について出してもらいたい。

(委員長) 次回の会議は大学も出席しますか。

(事務局) 次回は中期目標への意見ではないが、第3回でいただいた評価に対し、どう改善するか大学から説明する時間があるので、その際に触れさせていただきたい。

(委員) 委員の意見というのは、淡水生物学研究所が、完全に学部から切れているイメージをお持ちのようで、それだったらという話だと思うが、文章を良く読むと、学部との関係が切れてはいないが、どう教育上の意義を持つのかという話だと思う。

他の委員からも話があったが、体制について大学の結論が出ているのであれば、そういった点も意識して説明いただきたい。

3 その他

- ・今後の予定について、事務局から説明

4 閉会